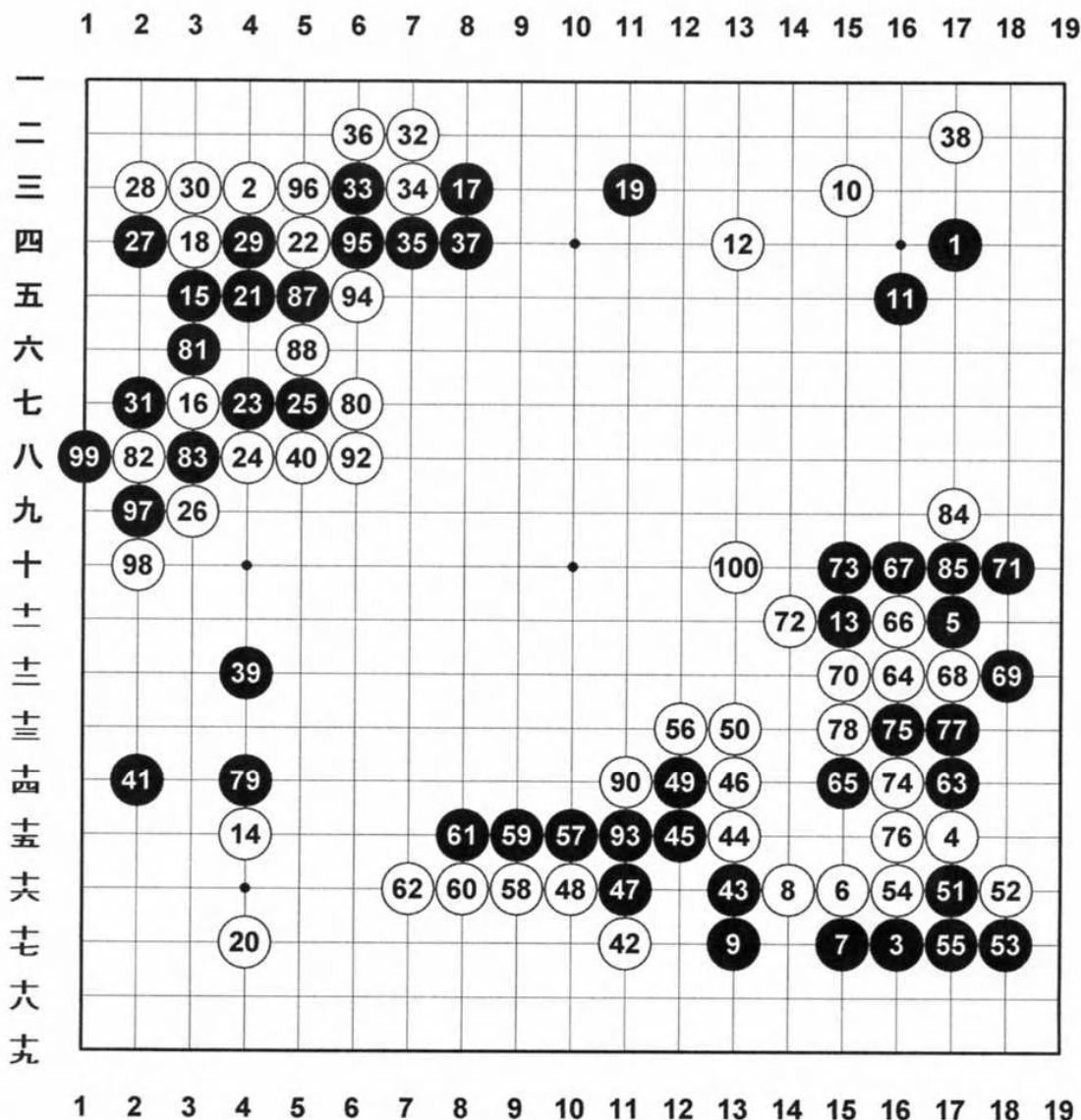


# 「本因坊秀策から学ぼう！！」

先番:本因坊秀策 対 白番:太田雄蔵 嘉永2年(1848)10月8日

## 第一譜 1 - 100



### ⑧⑥コウ取る(16)⑧⑨同⑧①ツグ(16)

左辺、掛かりを軽く見て黒が上辺を打てば、白も20と締まって黒21の動き出しを促し、左辺を打つ調子を求める。

黒17で挟まれた一子を動くのは、上辺をそっくり地にされそうだし、白20で白21とハネるのは黒20に入られて甘くなる。

黒31、白32はどちらも形。黒31で36とノゾいて応手を問うのもある。

実戦は黒37と継いで手厚く、白も38の走りに回って、いいかげんの分かれ。

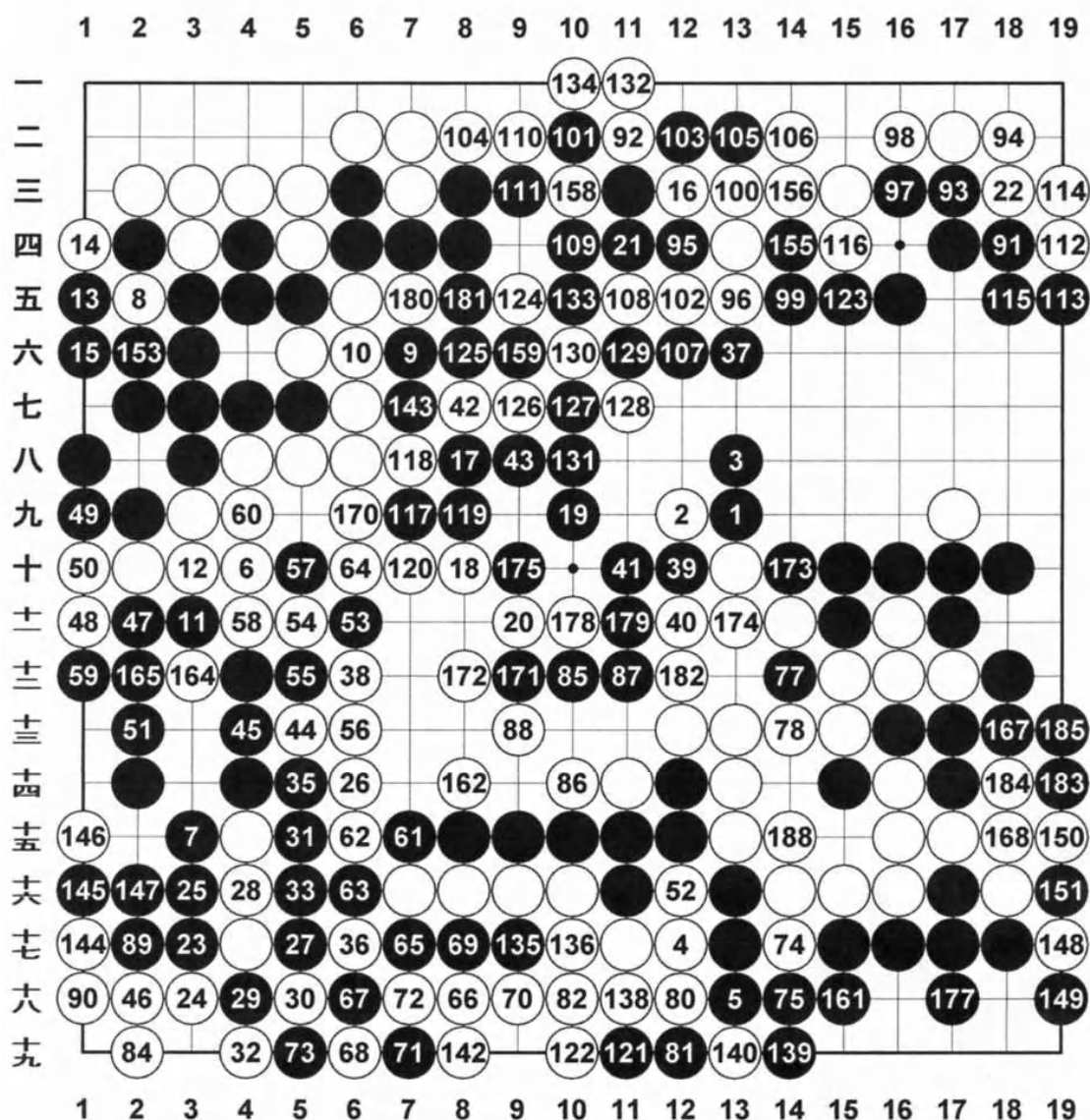
黒41のハザマには受けずに白42と詰め、白48のハネで下辺を囲いに出た。注文を付け合い、腹を探り合っている。

黒63とつけて、あわよくば左辺の白と絡もうとする。

捌きの手掛かりを求める白64のノゾキに黒65と反発し、黒69が緩まぬ形。

白90はコウを争うつもりではなく、手順の利かしというべきもので、白90で白94と押さえても、黒99までとなるとところである。

## 第二譜 1 - 189 ( 101 - 289 )



(34)(29)(76)コウ取る(68)(79)同(83)ツゲ(68)(137)(36)(141)(81)(152)(8の上)  
 (154)コウ取る(148)(157)(160)(163)(166)(169)(176)各同(186)(101)(187)コウ取る(151)  
 (189)ツゲ(148)

黒5でつぐと、白5のハネを利かされるので黒5は当然の反発。

黒が切らせようとし、白は継がせようとする今後の駆け引きが、本局の見所である。

黒は27とツケて絞るなどあくまでも継がない方針を貫ぬき、ついに白52と、切らされるはめになった。

白52と切ると、外からの利かしに受けなければならず、かえって立場が弱くなる。

その弱みにつけこむ黒53以下の手順は、まったく間然とするところがない。

黒67と穴を開けられ、下辺のコウは争えず、黒85にも白86の屈服を予儀なくされ、つらい限りである。白52と切って取っても攻め取りでは小さい。

黒91と押さえて勝負あった。黒4目勝ち